

H30 年度 事業者向け 放課後等デイサービス自己評価表（集計）

集計結果（職員 3 名・児発管 1 名）

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	1	3		利用定員に対して十分なスペースを確保しているが、雨天時や長期休業日など、子どもの人数や活動内容によっては手狭に感じることがある。そういった時には別の場所（多目的室等）を活用したり、活動内容を工夫したりして調整をしている。
	②	職員の配置数は適切であるか	4			配置基準以上の配置をしている。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	4			車いす対応のトイレやエレベーターを設置している。設備等に不具合が生じた時には可能な範囲で改善できるように努めている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	4			その都度話し合いをしながら業務の改善に努めている。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	1	3		昨年度から始めたばかりなので十分な活用ができていないが、今後につなげていきたい。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	4			H29 年度より公開している。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	3		1	今年度は第三者による外部評価を受けていない。（評議委員会への報告や評価の機会は設けている。）
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	4			必要に応じて行っている。

適切な支援の提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	4			している。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	1	3		事業所のアセスメントシートを使ってアセスメントをしているが、標準化されたアセスメントツールは使用していない。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか	4			している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	1	3		固定化しないよう職員間で話し合いをしているが、日々の活動の積み重ねの中で子どもたちが成長していくとも考えているので、同じ活動を続けつつ子どもの成長に合わせて活動の内容を少しずつ変えられるよう工夫している。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	4			長期休暇時には、平日放課後とは違った活動を計画し、細かく課題や内容を決めて行っている。来年度はより集団と個の力を意識した取り組みをしていきたい。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	4			している。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	4			している。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	4			している。
⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	4			している。	

関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	4			している。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか	4			している。
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	4			している。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	4			している。
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		3	1	医療的ケアが必要な子どもは、現在利用していない。必要に応じて連絡体制を整えていこうと考えている。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	4			引継ぎ会や担当者会に参加し、情報共有や相互理解に努めている。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	4			障害福祉サービス事業所等への移行をした利用児はまだいないが、別の事業所へ移行する子どもについて相手事業所と連携を取りながら情報の共有を図った。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	4			受けている。
㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか			4	ふらっぶの活動として、放課後児童クラブ等外部の子どもと活動する機会は作っていない。子どもたち一人一人が自分の思いを伝え、自信をもって自分のできる力を発揮し、共に過ごす友だちとの関わりを深めていく場所がふらっぶだと考えている。子どもたちは、日々、学校や地域の友だちとの間で社会のなかのつながりを深めており、ふらっぶでは小さな集団のなかで個々に寄り添った関わりを大切にし、子どもたちが社会のなかで自分らしく生きていこうとする力を育む手助けをしていきたいと考えている。	

	⑳	(地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか	1	2	1	児童審議会等へは参加している。
	㉑	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	4			気になることはお互いに伝え合えるよう心がけている。
	㉒	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	1	3		ペアレント・トレーニングの研修については、職員が研修に行き学んでいるが保護者に対しての研修はまだ実施できていない。保護者の相談を受けるなかで子どもとの関わりの方法のひとつとしてペアレント・トレーニングについての話をしている。来年度は保護者向けの研修を計画していきたい。
保護者への説明責任等	㉓	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	3	1		契約時に説明をしている。
	㉔	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	4			保護者からの相談があった時には、“ともに悩み、ともに考え”の姿勢で話をしている。
	㉕	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	3	1		勉強会を企画し参加を呼びかけたが、たくさんの人数の参加には至らなかった。保護者同士の連携についても十分に支援できていない。来年度の課題として考えている。
	㉖	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	4			保護者からの問い合わせがあった時には、その都度改善に努めてきた。現在のところ苦情という形での申し入れは受けていない。
	㉗	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	4			毎月“ふらっぶだより”を発行し、子どもたちの様子や行事の予定等の情報を伝えている。
	㉘	個人情報に十分注意しているか	4			している。
	㉙	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	4			している。

	③7	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	1	3		開所式は地域住民も招待した。日々の挨拶や周辺の清掃等をし、地域に溶け込めるよう心がけている。
非常時等の対応	③8	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	1	3		感染症の時期には、その都度お知らせしてきたが、その他のマニュアルについては、保護者に対して十分な周知はできていない。今後、契約の際などの機会に保護者に伝えていきたい。
	③9	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	4			毎月1回、職員を中心に避難訓練を行っている。
	④0	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	4			している。
	④1	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	2	2		身体拘束についての事業所としての考えを契約時に保護者に伝えている。子どもの意思を第一に考えた支援の組み立てをしており、やむを得ず身体拘束が必要な状況にはなっていないので現在のところ個別支援計画への記載をしていない。
	④2	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	4			医師の指示書を提出してもらい、それに基づいて対応をしている。
	④3	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	4			している。